



ベトナム・ナムディン看護大学と



青森県立保健大学との学術・教育交流

本学は、ベトナム国ナムディン看護大学およびベトナム国立栄養研究所との相互交流を通じて学術と教育の向上を図ることを目的に、2018年9月24日にナムディンにおいて交流協定を締結しました。その後、2019年9月に本学栄養学科学生5名がナムディンを訪れ、両国学生間の交流を行いました。2020年以降は新型コロナウイルス COVID-19 パンデミック影響を受け、学生の短期研修の見合わせが続いていました。このたび同研修を再開できる運びとなり、本学栄養学科の鹿内彩子教授と三好美紀准教授の引率のもと栄養学科学生4名と大学院生1名が2023年9月13日～15日にナムディンを訪れ、両国学生間の交流を行った様子を報告します。

1日目:両校の紹介・自己紹介



開会式にて両校で挨拶が交わされました

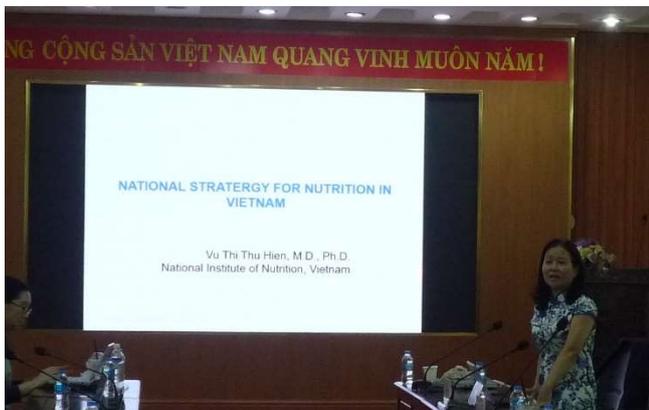


自己紹介の内容について、各自がベトナム出発前からパワーポイントを準備し練習して発表に臨みました！

文化交流として、それぞれの食文化を紹介し、日本の学生はアオザイ(ベトナムの伝統的な民族衣装)に挑戦、ベトナムの学生にはゆかたの着付け

2日目:両国の現状に係る講義と市内視察

午前中はナムディン看護大学講師の Ms. Tran Thi Nhi より「Nutrition Situation in Vietnam」、本学の三好美紀准教授より「Nutrition situation in Japan: A brief history of community-based nutrition strategy」、午後はベトナム国立栄養研究所の Dr. Vu Thi Hien より「National Strategy for Nutrition in Vietnam」をテーマに講義が実施され、学生たちは両国の健康・栄養課題の現状およびベトナムで進められている栄養士養成制度について理解を深めました。



午前と午後の講義の間の昼食はバインミー(ベトナムのサンドイッチ)を屋台で購入し、周辺のマーケットの見学を行いました。日本では見たことがない果物やその販売形式に学生から驚きの声があがり、ナムディン看護大学の学生に英語で、又は翻訳アプリを活用して、積極的に質問していました。この日の最後はナムディン看護大学の学生が作成してくれた2日間を振り返る動画を視聴し、別れを惜しみながら閉会式を迎えました。



帰国後の学生のレポートでは、ベトナムの食事や文化に直接触れることができたことからの学び、同年代の学生と直接話できたことにより、現地の栄養を取り巻く様々な現状を実感し、自身の将来を改めて考えたという声もあり、有意義な交流となりました。